

激発するストライキの波

『情況報告』(労働者の連帯)

A・I・T (国際労働者協会)
C・N・T (全国労働者連合)

ウァカンヌ開けの死刑宣告、続いてフランコの死、新政体にまつわる噂で、スペインが新聞紙上のトップ欄を賑わし始めて五ヶ月になる。イベリア半島を世界中が詮索しはじめたのだ。

冷酷無比、かつ現実として在る独裁制から、それほど短期間には、民主的であろうと言われる王政に移行することはあり得ない。その影響や、このような変化の結果、しかもこの変化が、特別の拡がりをもつ社会変動を伴うものである以上、あらゆる政治運動に関わる

人々が異議を唱えることなく移行がなされることはまずない。

今日、スペインは大規模な政治的戦略の時代を迎えている。一瞬のうちに誰一人として右派に立とうとする者がいなくなったこの中で、社会党(P・S・O・E)と共産党(P・O)は、彼らのみが左派全体を代表するものであるとし、(実際、既に合法化されたようなものだが)、可能ならば明日にでも政権にしようと企んでいる。

しかし、政治的戦略者らの計画は、スベ

イン情勢の測り知れない未知の部分によって大きく覆えされることもありうる。たとえば、消費社会のもたらす幻影に痺わされていると考えられてきたプロレタリアの闘争力しかりである。

今日、確かに言えることはプロレタリアが、外部から出されたあらゆる指令を無視して、みづから課した目標達成に自発的に行動を起している点である。共産党と社会党は「濡れ手で粟」式に、すでにすべての工場が操業を停止した後にゼネ・ストを呼びかけた。これを見て明らかに労働者の闘争に関する選択と行動におけるこの自治力は、革命の素因がまだ減っていないことがこの証しである。

スペイン労働者階級の現在行なっている闘いを、CNTであろうと、他の何であろうと横から入り込んで独占するようなことは出来ない。とは言っても、産業部門によつてはCNTの存在が決定的なものであるのも事実である。資本主義と国家に対する闘いにおける労働者階級の最も効果的な闘争機関として、かつて存在したような、強力な組織の建設へと働きかける為に、我々を常に勇気づけてくれるような実体としてのCNTが、ここで問われているのだ。

同志よ！ フランコは死んだ。だが、スペイン資本主義は、社会民主主義と共産党の内

部に最上の同盟者を見出したことによつて、かつてなかつたほどの強力なものになっていく。このスペイン資本主義に立ち向うスペイン労働者を援けようではないか！

一九七五年 十二月・十二月

マドリッド—スト決行中の建設業とスタンダード電機

建設部門及びスタンダード電機(I・T・Tの子会社)のいづれの場合も、労働運動の起爆剤となつたのは、向う二年間にわたる産別労働規約の更新である。

一九七五年十二月初め、CNT加入の革命的マドリッド建設業組合から何千枚ものピラが配布された。その内容は、

- ファジストの組合は、産別労働規約に署名する構えていることを労働者に警告し、
- 産別労働規約とは、労働者を資本主義社会に繋ぎとめることであると言ひ、そして、労働者にゼネストを呼びかけている。
- その要求項目として、
- 週四十時間制
- 最底月額給与を三万ベセタに(現在、一万五千ベセタ)
- 六十歳定年制(病身者には五十歳)

- 社会保険の会社負担
- “拳銃団”(ピストロス)と請負作業の廃止
- 工場内の衛生及び安全を管理する労働者委員会の設置
- 病氣、事故、失業の場合における給料の全額支給
- 全ての労働者に年間三十日の休暇を
- 正当な理由を伴わない解雇反対

(※ 政治活動をする労働者を抹殺するための殺し屋部隊)

このようにして、CNTはストを呼びかけ、国民と建設労働者にストの進行状態を報告している。(情況報告パンフ二号)

マドリッド

北部地域 コンプレックス・アスカ、ミラシエラ、アルコベンダス・ピラール、フェロピアルはストに参加、パナースは就業再開トレジジョン 建設現場の九十%がスト突入
ヴァリエカス 全ての建設現場でスト続行中
アルカラ 全ての建設現場でスト中
アルチェ 地下鉄を除く全ての建設現場でスト

カラバンチュル 五十パーセントの建設現場がスト
エンバルドレス オブラスコン、インフィス
• ベイイレでスト

ゾナ・ウェンタス 全ての建設現場でスト
カステリアーナ エントシカナラス、ミンゴ、アグロマンでスト中
レガッビー 主要建設現場はすべてスト中

同パンフレットは、鉄鋼業部門(バレイロス、カサ・イ・ケルヴィナツール、マルコニ及びスタンダードの各社)のスト続行をも伝えている。

U・G・T、F・R・A・P、そして労働委員会もストに加入した。マドリッドの建設現場はすべて麻痺状態にある。

× × ×

マドリッドと、その郊外にある工場に二万人の従業員を数えるI・T・Tの子会社、スタンダード電機のスト運動は、産別労働規約更新と、給料凍結“令に反対して起された。十二月四日になつて、会社側は専門技術者に対して、毎月十九パーセント(約二千五百ベセタ)の昇給、及び会社創立五十周年を理由に臨時賞与一万九千七百六十ベセタを申し入れてきた。

この会社側提案は労働者側を満足させるものではなかつた。

十二月五日、六日、九日、十日、十一日にはマドリッドにあるラミレス・デル・ブラド、

ウィラウエルデ、バラハス、メンデス・アル
ワアの各工場で従業員全員が全面罷業を断
行した。I・T・Tグループのサンタンデー
ル、トレドその他の工場では順法スト及び時
間外勤務のボイコットを実施中である。
続いて十二月十七日、十九日にはスペイン
のI・T・Tグループ全体、鉄鋼業部門全体
(バレイロス、マツダ・メタル、ロバート・
ボッシュ、イベリア・モーターズ、その他)
に運動が拡がり、罷業が増加している。これ
は鉄鉱業セネ・ストに突入するためである。
I・T・Tグループのベルギー人労働者は
スペイン人労働者のために国際的支援金カン
パに乗り出した。

一方、スペイン人労働者は長期で困難なス
トに備え、国民が連帯として持ち寄る救済金
や連帯基金を拡く募った。その総額は一月十
五日には二百八十万ペセタ(約千三百万円)
にのぼった。

最後に付言すると、彼らの要求事項の筆頭
には単なる給料要求をしのいで、政治犯釈放
、全面的な恩赦、組合運動の自由、地下鉄労働
者との連帯があげられている。

部分的同盟罷業、サボタージュ、ボイコッ
トから革命的ゼネストへ、そして武装蜂起へ
と、これが我々の戦いである。
一九一九年、法律は一日八時間制を定めた。
これさえも、O・N・TやU・G・Tが路上
で闘い取ったものである。
法律とは、直接行動によって獲得されたも
のに形式を与えるために役立つのだ。
一九三六年以前は、CNTの決定によって
時間外勤務はなかったし、請負手当もなかつ
た。それでも、工業地域における生活水準は
現在よりも高かったのだ。
労働者の解放は労働者自身の務めである。

一九七六年 一月

全面化した銀行スト

今回の労働争議の誘因となったのは、銀行
部門においては、産別労働規約の更新ではな
く(一九七六年末まで有効)、労働規約の署
名人であるONS(ファシストの組合)の代
表資格に対して従業員から否認の声があがっ
たのである。

バルセロナ、マドリッド、デス・アスチュ
リエス、コルドバ、ギブツコア、フェルヴ
ア、ナヴァラ、セビリア、ヴァレンシア、ビ

アナルコ・サンジカリストの活動

マドリッドのCNT系建設業
労働組合誌『コンストリク
シオン』十一月号より転載

労働者の解放は労働者自身の務めである。
労働者と資本家の間の粉争においては、あ
らゆる媒介を削除するべきである。すなわち
政府、法律、道徳主義的諸制度、組合代表者
、国家管理の組合、そして又、様子振りたいが
ために、我こそが労働者階級の唯一かつ真
正の「代表である」と自称する輩を言う。

労働者階級の代表は労働者階級以外のなに
ものでもありえない。

媒介を通じては、我々の階級闘争は常に制
限つきのものとしてとどまる、何故なら、常
にあらかじめ定められた合法的手続を強いら
れるからだ。

そればかりか、媒介となるものはきまつて
我々の運動の効果と、我々が抱いている信念
を損うものである。そして、我々の間に責任
感や連帯感を築くまでもなく、いつか情況は
改善されるだろうと期待させるようになるの
だ。

我々の一人ひとりが自分の置かれている境
遇に目覚め、同志すべての間に革命的意識を

スカイヤ、グアリャドリッドの従業員は代表
を選出した(CNTを除いて)。彼らは銀行
取締役全国連合議長、アギーレ・ゴンザロと
話し合いを持つ為にマドリッドに集合した。
彼らは議長に権利要求項目を提出し、CNT
Sは彼らの利益を代表するものではないと宣
言した。政治活動、組合活動の科で入獄して
いる者すべて釈放、月額三千ペセタの昇給
組合権、それに産別労働規約の廃止などが要
求事項であった。議長の返答は「君たちの代
表資格を証明して見せろ」であった。彼はこ
うして、容易に収拾のついた筈の交渉にのっ
てこようとしなかった。

これに対する従業員側の返答はすぐ戻って
きた。十二月十八日、銀行ストは全国に拡大
した。報導陣の質問に応じた従業員代表は、
「我々は我々の権利要求と今までは異なる
組合の為に闘っている。ただちに満足のいく
回答が得られない場合には、一月に再び闘い
を始める覚悟でいる」と答えた。

事実、十二月のストは短期間で終ったが、
休暇後の一月に入るとストは拡大していった。
バルセロナ、マドリッドの銀行は、ほとんど
がストに入った。中央銀行、ビスカヤ、リヨ
ン信託銀行、インデュバン、コメルシアル、
トランスアトランティコ、対アメリカ商業銀
行、ベニンシュール・イ・ロンドレスの各
銀行がマドリッドでは全面ストに入った。そ

植えつけねばならない。何故なら、搾取され
ているのは誰ということなく我々すべてであ
るからだ。我々の、給料労働者としての立場
が搾取される原因となっている。

結束と連帯 各人が各々の職場で労働者の
組合を組織し、武器として、我々の相互
援助を意味する連帯を持つべきである。
直接行動 媒体の排除、そして資本家に対
立して起される連帯的、かつ明確直接的
責任ある行動。

総会 各人が各人の持論を展開し、決断を
下し、連帯と闘争意識を鍛える場となる。
産業別地域組織、地方的、全国的、国際的
に団結する労働組合。これにおける相互
扶助、これこそアナルコ・サンジカリス
ト活動と呼べるものである。

労働争議にあたっては、かの大手組合の幹
部が雇主と渡り合う際の「請願」とか「受話」
とかは排除し、願い出るのはなく、我々の
権利を直接もぎ取りに行く直接行動に出よう
ではないか。ただし、この行動は論議され、
道理にかなった全員参加のものであるべきだ。
給料労働者の生活改善を獲得する為の闘い
は、一時的であってはならず、我々の完全な
独立が勝ちとれるまで、毎日続けられなけれ
ばならない。

の他、イスパノ、メルカンテイル、アトラン
ティコ、サンタンデル、マドリッド、イベ
リコ、ビルバオ、オクシデンタル、ロベス・
ケサーダ、コメルシアル・デ・カタルナ、イ
ンダストリアル・デ・カタルナ、その他多く
の銀行は時間内のストを実施した。

バルセロナでは、二十六の銀行が全面的に
十が部分的に営業を停止している。総勢一万
五千人の従業員がストに参加した。ビルバオ
、パンブローナでは全ての銀行が時間内ストを
実施した。バレンシアではすべての銀行が全面
ストに入った。ラス・バルマス、コルドバ、
セビリア、フェルバ、グアリャドリッド、サ
ラゴサ、アリカンテ、ベニドルム、エルチェ
では労働争議が続発した。

一月二十日現在、情況は変わっておらず、銀
行界におけるストは、事実上全面化している。

スペイン無政府主義運動の立場

FRAPおよびETAの活動家五名の死刑
フランコの死、ホアン・カルロスの王位継承
を待たずして、八月に入るとすぐにCNTは
反フランコ体制運動のせまい枠を脱して、プ
ロレタリア闘争をその本来の視野に立つ闘争
にふき戻した。即ち、たとえ(スペイン)資

本主義が、フランコの剣の影や、ホアン・カ
ルソスの「民主政治」の影に偽装していよう
と、資本主義であるとする見方である。ここ
に再録された決議案の抜萃の中には左翼政党
(共産党、社会党)があわただしくも合法的
反対派の役割を演じようとしたことも非難的
的となつてゐる。

—以下その抜萃

経済的、政治的には社会民主主義的社会へ
と発展してきたのに、警察はバスク地方の住
民やイベリア半島の他地の住民を相も変わら
ず拷問にかけ、裁判所は革命家に有罪宣告を
言い渡し続けている。これが現在スペイン社
会のパラドックスである。だが、革命家がフ
アシストと同じように社会民主主義者をも嫌
つてゐるのが明らかである以上、このパラド
ックスも表面的でしかない。

社会民主主義とは、政治経済構造を変革す
ることなくして、いわゆる、民衆の意見と呼
ばれるものに従えるように、すべての政治流
派に暗黙の契りを約するような政府の巧妙な
システムを言う。このような政体から資本主
義が引き出すことのできる利得は容易に想像
できる。そこでは、闘いと言つては、議会上
におけるわずかな小競合にとどめられ、其の問
題は忘れられるのだ。自由主義社会における
政府とその公認野党とは或る一点で一致して

いる。即ち、この自由主義社会の儲けの規則
を受け入れるという点である。従つて、いか
なる類いの野党も現実的には、この自由主義
社会の恩恵をもつて発展していく資本主義を
打ち倒すことはあり得ないのだ。

それでこそ、最も冷徹なスペイン資本主義
の一端は、自由主義の原則を全面的に受け入
れ、かつ資本家側の供するあらゆる宣伝手段
を用いる左派反対党を奨励してゐるのだ。こ
れこそ、近い将来、資本と国家に現実的に対
決する革命勢力の発展にとって大きな障害と
なるであろう。

今日、スペインでは共産党と社会党がこの
合法的、従つて、反革命的反対派の役割を担
おうと名乗り出てきている。「大衆集会」、
「民主主義評議会」における彼らの行動——
公然とした大資本との結託であるが——、親
フランコ勢力の率いる組合選挙における彼ら
の行動が、これを明らかにした。彼らの策謀
は歴然としてゐる。今日、フアシスト組合は
我々を招き入れ、明日には、これこそがスベ
イン労働者階級を実際に代表するものと言つ
てのけるのだ。(幾分の修正を加えた上で、
CNSは彼らの手の内で自由主義社会の唯一
の組合に成り上れるであろう。そして、その
重みと構造でもつて真正なる革命的サンジカ
リストの声を封じようとするだろう)

は部分ストが行なわれた。このストの目的は、
物価高に対する臨時手当および現行の産別勞
働規約の改正である。

二十二日月曜午後、電話会社カンパニア・
テレフォニカの従業員は総会を開き、六千ベ
セタの昇給、労働組合の発足を要求し、会社
側から出された上限給与額をはねつけた。
二十二日月曜、セビリアのメゲサ社従業員
四十七名が解雇された。以後、彼らは家族と
共に教会に閉じこもつてゐる。

一九七五年十二月二十四日水曜日

レモニス原子力研究所を建設中のイベルモ
社従業員、約百名は教会に閉じこもり、ハン
ガー・ストライキに入った。これは、タモカ
社のストに連帯責任を問われ、解雇された六
十名、および自社のスト責任を問われて解雇
された三百七十二名を再雇用させる為である。
この二社の約四百名の従業員はゲッチョでデモ
行進をし、その後、前記の百名と行動を共に
しハンガー・ストライキに入った。

一九七五年十二月二十五日木曜日

ギジョンにある企業数社の五百名の労働者
が、スト責任を問われて解雇された。

一九七五年十二月三十日火曜日

スタンダード社従業員は、交渉を早める為、

こういつたところが現在のスペインの透視
図である。これらの策謀に直面したCNTの
立場とはどんなものであろうか？ フア
シストであろうと社会民主主義であろうと、
他のいかなる仮面をかぶつていようと、国家
に対する闘いをCNTは今日も続けているし、
明日も続けて行くだろう。単なる組合の枠を
脱したCNTは、革命と解放を目指す組織で
ある。従つて、CNTは単一的であつたり、
不統一、不毛であつたりする組合に決して溶
け込むことはない、CNTは今、市場経済や
賃金労働のない社会、消費量をカバーするだ
けの生産を行なう社会、上役のない、階級
のない、指導者を持たない社会の建設を提案
する。私的であろうと国家のものであろうと
資本に対する闘いをCNTは続けて行くだろ
う。何故なら、資本とは、人間の人間による
搾取を意味するからだ。

CNTの目標は一点に集約できる。革命的
瞬間において、あらゆる富の生産者である勞
働者は、工場、作業場、耕作地そして居住区
に、自由集会、およびその各々が自由に団結
を組んで自治組織を作らなければならぬ。
かくして、搾取や支配の無い、彼らの好みに
合つた社会を建設しなければならぬ。

直接行動をもつて、我々はあらゆる形の抑
圧に対する全面闘争を展開する意志でゐる。
昨日と今日、我々はフランコとその政体、そ

就業再開を決定した。

一九七五年十二月三十一日金曜日

メガサの四十七名の労働者は教会にひき続
き閉じこもつてゐる。
アスチュリ鉱山では、ヒュノザのサン・
アントニオ坑で事故にあつた坑夫との団結ス
トが行なわれ、これによつて他の六ヶ所で働
く労働者千五百三十九人に及ぶストに拡大した。
七五年十二月四日より続いてきたオルベガ
(ソリア地方)のレベリア産業における集団
争議は終つた。

セガラの労働者は二回に渡るデモを実施
(約九百人が参加)。
イベルモ、タンベンの四十人の労働者はハ
ン・ストを続行。

一九七六年一月二日金曜日

コルドバの都市交通は数時間のスト決行。会
社側は一月五日、交渉再開を申し入れた。こ
れを拒絶した従業員側はストに続いて、デモ
を行なう。午後四時、要求が受け入れられた
時点でスト解除。

ヴァレンシアの建設業労働者約二百名がデ
モを行ない、パンフレットを配布。

イベルモの従業員は十二月二十三日よりハ
ン・ストを続けているが、現在では三十五名
を数えるのみとなつた。

の警察機構と闘つてきた。明日はポスト・フ
ランコ主義、社会民主主義臨時政体と闘つて
いくだろう。休戦はないし、又あつてはなら
ないのだ。人間は依然として奴隷の状態にい
る。昨日は死刑執行人や独裁政権の、明日は
錯乱の生産の奴隷であるのだ。
我々の欲しいのは、我々の、そして全人類
の完全なる解放である。

闘争中のスペイン労働者階級

一九七五年十二月二十三日火曜日

タクシー業界はほとんど平常の状態にもど
つた。一万三千台のタクシーの十%のみがス
トを続行している。当初、部分的に始められ
たこのストは、十九日金曜日正午頃からはゼ
ネストに突入し、二十日土曜日午前零時に終
つた。これは料金値上げを目的としたもので
あつた。

難局を迎えたアウチ社は一九七六年六月
十七日より、経済的理由をもつて従業員二千
百名を解雇する旨を発表した。そのうち約千四
百名は本日、十六時三十分よりロス・カリヤ
レスからサンタンデルルまでのデセ行進を決
定した。

二十二日月曜日と今日正午より銀行業界で

アルバセト精神病院の従業員十名がストに入った。
マドリッド市当局殺所の従業員百六十名のスト終結。

一九七六年一月三日土曜日
マドリッドの銀行でスト突入
バルセロナ港の約千名の労働は効率低下運動を続行。
メガサの四十七名の労働者は教会に閉じこもったまま。

一九七六年一月四日日曜日
クライスラー社の従業員は、スト行為を問われた同僚千名以上の懲戒処分に対して抗議する為、教会に閉じこもっている。

一九七六年一月五日月曜日
マドリッドおよび地方にあるスタンダード社従業員千名が四時間ストを実施。
メガサの労働者は閉じこもっていた教会から、警察の手で退去させられた。
イベルモの労働者は作業を放棄。約千名が閉居中の有志の為に抗議デモを行う。
リナレスの交通スト

七十五パーセントの労働者（病欠欠勤も含む）を解雇したヴェルス社の労働争議は依然として続けられている。

編集後記

前号の後記でちよつと触れられていたが、本誌の編集部内で、雑誌の性格をめぐっての討議が二月から三月にかけて続けられた。前号のK君の要約では必ずしも意を尽していないが、討議の内容については機会を改めて報告したいと思う。結論は、十号をもって同人制を解散し、本号より、継続を申し出た奥沢が編集・発行を引き継ぎ、同人体制を再編成することになった。

編集スタッフは四人だったのが、二人と半減した。財政的にはこれまで以上に苦しくなるだろう。ただ、十五号までは何とか続けたいと思っている。それは、本誌で内容的に追求してみたいテーマがあるからである。革命観の問題、共同体の問題、自主管理の問題がそれである。もちろん限られた時間内での仕事であるから、十分に問題をきわめた内容が提示できるとは思っていない。しかし、それらのテーマに対するわれわれの思想的立場からする問題提起をできうる限り果したいと考えている。今、ぼくがこの雑誌に固執するのは、そのためである。

したがって、雑誌の今後については、以降一年余の活動に依存していると言える。問題提起が一定の展開をみれば、雑誌は一定の意

料金値上げが昇給に反映するよう望む地下鉄労働者のスト。

一九七六年一月六日火曜日
マドリッドの地下鉄におけるゼネ・スト。
ビレリ・モルテックスの従業員は人員整理に拒否運動を起す。
マタロにあるフアブレガス工場で十二月二十三日に始まったストは解除された。
ガレット・ソルソナ・リウス社のストは、七十五年十二月十九日より続いている。

一九七六年一月七日水曜日
地下鉄スト続行。バスの運転者のなかには、これに対する団結のしるしとして、のろろ運転を行なう。始発の地下鉄は運転席に軍人、客車に警官をのせて走っている。マドリッドの住民は罷業者を支援を送る為、バスを混乱させて連帯ピケをかけた。スト中の労働者は市中で各種の集会や総会を開いた。労働大臣、ホセ・ソリスは地下鉄労働者を軍隊組織化すると威嚇した。

マドリッドの効外電車職員四百名、ストに突入。
スタンダード、ビベチチュール・イ・ナウアロ、クライスラーおよび地下鉄の従業員で組織された五千名のデモ隊は、ガスやゴム弾で攻めてきた警官隊により解散させられた。

味と役割を確定するだろうと思う。そして、継続を主張したばくとしてはそこに賭けたい。といっても、雑誌は個人的な活動によってではなく、広汎な支持者によって成立する仕事であるから、一人で力んでみても始まらない。多方面にわたる支持・協力を改めて要請する次第です。

判型をA5判に変更しました。一般書店に置いて、書店での売りあげ部数を伸ばそうと考えている。はたして思惑どおりに事がはこぶか否かは、いささか自信ないところだが、雑誌の運営面でも、また本誌編集の立場から、可能な範囲でできるだけ広汎な読者を得たいと思っている。また、次号から、定価を三五〇円から四〇〇円に改訂します。四号から二年余り、現在の定価を維持してきましたが、財政的には相変らず同人費に依存する状態を脱けきれず、かつ郵便料の値上げによって経費がかさんできたこと、印刷代のアップなどの要因がある。新しい定価のもとで、経済的な面を建て直すつもりです。御了解のほど……

本誌の同人および、編集協力者を募集しています。連絡は編集部まで。
X X X
〓 定価改訂のお知らせ〓
次号十二号より、本誌の定価を四〇〇円に改訂します。

又、スタンダード従業員（二千名）の一隊も同様に解散。それから人々はトレド橋の方向へ向い、そこに約二千名が集合したが、又も解散となった。

スタンダード社従業員はストを強化。
ジョン・ディアの労働者二百名は、ゲタフェの教会に閉じ込められた。理由は工場封鎖。
警察隊は今日午後レブリハ（セビリア）のオリバ教会から百名あまりの農業労働者を追い出した。これら農民は、農業法改正と、未耕作地の日雇い労働者への授与を要求した。

一九七六年一月八日木曜日
総会に集合した地下鉄従業員は、会社側の交渉再開拒否を理由として、三千票対五票でスト続行を決定した。輸送のはぼぼ七十%は軍隊によって確保された。八時五分、五百名から成る支援デモは警察の力で解散させられた。同日行なわれた各デモ隊は同様の経過を辿った。
(次号に続く)

(七九頁よりつづく)

「何もしない……、おれは彼らを説得した。彼ら一人ひとりに、粉末でない小麦二キログラムを与えた……、彼らは受けとることを拒んだ。そこでおれは、軍隊と共にダウルキスとレイムを派遣した。」
「非常によろしい……、ところで、おまえはいつクロンシュタットを攻囲するつもりなのか？」

「それは唯一悪魔のみが知ることであり、我々別動隊としては、いつでも応じる用意がある。しかしベトロバプロフスク号はこれを望んでいない。そこでおれは彼らに尋ねた。それが恥であるのかと。」
「同志よ、恥とはどういう意味か？ 我々はこの汚らわしい恥を思い起こす時、大隊を是認するのだ、違うか？」
「それが悪魔なんです……、それは大隊ではないんです……」

「お前にとって、これらの事はどうなんだ？」
「こちらはすべて準備完了、スト中の労働者・水兵そして赤軍兵士は動揺している。人民にはパンがない……、他に矯正法がなければ、クロンシュタット戦列の隊を保ち、我々はそれを待ち望んでいる。」
X X X
会話を盗聴した電話交換手

黒の手帖

第20号

目次

季節の雑話——近作詩七篇	秋山清
書評二つの『ブルードン研究』	長谷川進
山と川について——自然論序説2	菅田正昭
「伊勢」信仰と天皇制(上)	大沢正道
新刊旧刊	

定価 300円 (送料120円)

黒の手帖社

東京都新宿区北山伏町33 大沢方
 振替・東京7-102465
 2号分前納 800円
 4号分前納 1600円
 (いずれも送料含)

黒の手帖 第19号

自由クラブの時代	大沢正道
「大杉栄の旅」小感(4)	秋山清
グスタフ・ランダウアー	C. ウォード
「共同体」批判論・序説	奥沢邦成
太陽について	菅田正昭
ナショナリズムと文化(2)	R. ロッカー 大沢正道訳

黒の手帖 第18号

労働と機械	大沢正道
「大杉栄の旅」小感(3)	秋山清
書評 硬骨のヒューマニズム	清水清
民族と土地(2)	G. ランダウアー 松尾和彦訳
船の思想(3)	菅田正昭
ナショナリズムと文化(1)	R. ロッカー 大沢正道訳

定価 300円 (送料120円)

黒色戦線社

天皇制破壊への渦動 塩谷雄高・大島英三郎ほか	300円	労働運動《復刻》(新聞版) 第1~4次/大杉栄ほか編集発行	5000円
難波大助大逆事件 虎ノ門で皇太子(現天皇)を狙撃	900円	労働運動《復刻》(雑誌版) 第5次/近藤憲二ほか編集発行	[近刊]
何が私をかうさせたか 金子ふみ子獄中手記/塩谷雄高跋	2000円	大杉栄・伊藤野枝追悼号 『労働運動』大正13年3月号復刻	400円
反逆者の牢獄手記 大杉栄・朴烈ほか10氏	200円	ディナミック 石川三四郎個人誌復刻	3000円
日本無政府主義運動史 第一編 石川三四郎ほか3氏	350円	差別とアナキズム 宮崎 晃著 水平社運動とアナ・ボル抗争史	1600円
自治民範 (全) 権藤成卿著作集/第1巻	3000円	黒色戦線《復刻》 アナキズム文芸運動誌	5000円
農村自救論・日本農制史談 権藤成卿著作集/第2巻	3000円	黒色青年《復刻》 アナキズム最高の理論誌	2500円

群馬県伊勢崎市市中町和田 大島英三郎方
 電話0270(24)0776 振替/宇都宮11015

資料室・共学読書会室 東京都大田区西蒲田7-61-8 エンリコビル4階
 電話03(735)1246 毎月第2・4日曜午後1時より共学読書会(公開)

Anarkismo

JAPANA CENTRO POR ESPLORO DE ANARKISMO

n-ro 11

de RYU-Buiçirô
 Sugita 251, FUZINOMIYA,
 Shizuoka, Japanio.

Junio 1976

...ENHAVO...

Vidpunkto de Rockyd-afero kaj nia tasko ...Red.	2
Raporto de Rockyd-afero ...NUKADA Jiro	6

(Specialaĵo)—Cele al restarigo de studentmovado

Rekonsidero pri la '60jaraj studentmovado	
...EGUČI Kan	11
Kontraŭado kontraŭ anstataŭa kolektado de kotizo de student-autonomisocio	...FUJITA Jiro 16
Esenco de 'Zenkjoto' movado kaj nova studentmovado	...Anarkista Grupo de Univ. HOSEI 20
Fino de partiera studentmovado	...NIŠIDA Kazuhiro 28

Nova koncepto de revolucio ...OKUZAŬA Kuniŝige	53
"Cronstadt Izvestias" N-ro 6	67
Ondoj de furiozaj strikoj (Hispanio '76)	80

Infruo de printempa lukto nacia	...JASUDA Ŝinĵi 38
Esploro pri sindikatismo	...MIJAZAKI Akira 39
Libro:"Traktato pri postmilita anarkisma movado	...OKUSAŬA Kuniŝige 46
Filmo;"Nova lukto sen humaneco"	...JAMAGAMI Haruhiko 51

本誌取扱い書店

札幌||アテネ書房・ひらひら・札幌ルビコン
 ・札幌紀伊国屋・富貴堂 仙台||八重洲書房
 秋田||無明舎 新宿||模索舎・紀伊国屋書
 店 早稲田||寅書房・谷書店・文献堂 神保
 町||ウニタ書店・文泉堂 下北沢||幻遊社
 池袋||高野書店・芳林堂 大塚||東洋堂 四
 谷||文鳥堂 目黒||駒場書店 吉祥寺||吉祥
 寺ウニタ 高円寺||かたんむ 川口||東洋
 堂 浦和||荒井書店 越ヶ谷||大袋書店 川
 崎||甘露書店 横浜||栄松堂・横浜ルビコン
 名古屋||名古屋ウニタ 京都||ほんやら洞
 ・ふたば書店・梁山泊・セイレイ社・三月書
 房・京都書院・リベロ社 大阪||大阪ウニ
 タ・曽根崎書店 神戸||イカロス・神戸共同
 文庫 広島||アカデミー書店 岡山||梁山泊
 福岡||未来書房 熊本||デラシネ書房 沖
 縄||沖縄舎

発行日 季刊 『アナキズム』 十一号
 編集・発行所 一九七六年六月三〇日
 東京都千代田区神田神保町2-1-32
 大同会館 現代思想社気付
 アナキズム編集委員会